

令和2年度 第2回防府市高齢者保健福祉推進会議 会議録

日 時 令和2年9月24日(木)午後2時

場 所 防府市文化福社会館 3階9号会議室

1 議 事

○ 報告事項

(1) 第8期介護保険事業計画の概要について

資料1～3、パワーポイントを用いて説明した。

A 委員 基本目標を変えた点、「いつまでも」を入れた点はよい。
幸せの提供ができるという言葉は聞きなれないが国の基本方針にこのような言葉があるか。変える場合には第8次計画の目標が達成された、あるいは情勢の変化があった時に変えるべきであって、それならば、第8次計画の思いやりと支え合いのある地域社会は達成できたのか？第9次計画の基本目標について、「自分らしい生活が送れるように、思いやりと支え合いによる幸せの提供ができる地域社会を目指す」にしたらどうか。

事務局 国の基本方針に入っているものではないが、ここ数年行ってきた短期集中予防型サービス事業等で幸せを提供できるということを皆が共通して感じている。
基本目標の表現については、再度検討していきたい。

A 委員 第9次計画の重点施策、②地域包括ケアシステム構築に向けた保険者機能の強化について、「保険者機能の強化について」が地域包括ケアシステムの中で全体を占めていない、小さすぎないか。
「地域包括ケアシステムの深化に向けた保険者機能の充実」とかにしてはどうかと思う。

事務局 「保険者機能の強化」という表現についても検討していきたい。

B 委員 基本方針の「高齢者の生きがいを持ち、充実した生活ができるまちづくり」について、文章としてどうか。「高齢者が生きがいを持ち・・・」ではないか。

基本方針の各施策推進のキーワードの中の社会資源は無限について、無限な社会資源を利用できるか、例えば情報の一元化とか色々な事があるとは思う。そういうものは後の具体的な施策の中に出てくるとは思うが、キーワードとして社会資源は無限と書いてあるだけで終わってしまっては意味がないと思う。

事務局 生活支援コーディネーターは、地域包括支援センターに1名ずつおり、色々な資源のマップなどを作っている。そういった情報を集めたものを一元化して冊子のようなものも作っており、そのようなものを広めていくのも1つである。またその人を地域で支えていくためには、その支援者がその人を支えている物にどういった物があるかに気づくことが大切であり、「こういったものが利用できないか」、「こういったものがあつたらいいな」というところで仕組みを作っていく・・・という意図もあり、基本方針の各施策推進のキーワードとして書いている。

色々な資源を皆が使えるような一元管理や活用方法についても検討していきたい。

B 委員 施設の新設はしないと言い切っているが、資料からは、待機者もいるし、書き方として新設はしないと断言するのならば、2025年に向けての過程で他の表現方法があるのではないか。在宅の充実ということを言われているが、施設整備の充実と在宅の充実は相反するものではなく、相互にそれぞれ機能があると思うので、違和感を感じる。

事務局 頂いた意見をもとに、書き方について検討していきたい。

○ 報告事項

(2) 地域包括支援センターの運営状況について

地域包括支援センターの受託法人の公募について

資料4、資料5に沿って、説明した。

A 委員 包括支援センターの当初の委託については、3年だが、ある程度、民間の事業運営を適切にやっているところであれば、安心して5年にできると考えているが、その辺を検討したことがあるのか。

事務局 委託期間を延ばすことについては、検討したが、1年契約が本来の姿でもあることから期間を延ばすことについては、難しいと考えている。

○ 審議事項

地域密着型サービス事業所の指定更新について

資料6に沿って、地域密着型サービス事業所の指定更新について説明した。

意見なし

○ その他

次回の防府市高齢者保健福祉推進会議を11月に開催することを案内した。

以上